

「熟議」と民意

ニュース 争論

「ねじれ国会」の現実

立会人 仙谷さんは野党時代から「熟議の民主主義」を訴えてきました。が、現実の国会は熟議にはほど遠い状況です。

仙谷氏 ベルリンの壁崩壊やソ連解体を受け、政治は「資本主義対社会主義」という「体制選択」から「政策競争」の時代に移りました。与野党が議会で議論を詰め、合意を繰り返してこ

とが政治の本質だと考えます。しかし日本には「議会は政府追及の場」という風習から、今なお決断できていません。政府の追及で事足りりとする手法は、議会は宣伝・暴露の場という「レーニン主義的議会議論」ではないでしょうか。

曾根氏 政治家が「妥協」や「合意」を口にする「軟弱」と批判される空気が生まれています。橋下徹・大阪市長のように、敵を作ったたく手法が国民の喝采を浴びています。いずれも「熟議」の対極にあるものです。

「ねじれ国会」の問題もあり、与野党が何も決められない。国民は「国会は審議していかない」「審議しない国会は要らない」と、直接民主主義を志向しつつある。こんな状態が続けば、代議制そのものが否定されかねません。

立会人 とはいえ、過去には「ねじれ国会」下でも与野党が合意し、成案を得た法案もありました。

仙谷氏 自民党が民主党案を丸のみした金融再生法(98年)、がん対策基本法(06年)などは、野党だった民主党が対案を出し、与党との修正協議の末に成立させました。状況次第で与野党合意を作れることもできるはず。立会人 どういう条件がそういえば合意できますか。

落ちていた議論で合意形成を目指す「熟議」が、日本から失われつつある。相手の攻撃に明け暮れる国会、短期間に大きくぶれる民意……。「熟議の国会」を訴える仙谷由人・民主党政調会長代行、討論の要素を加えた新たな世論調査を提唱する曾根泰教・慶応大大学院教授に処方箋を聞いた。「立会人・尾中香尚里政治学部長、写真・岩下幸一郎」

政策論議も国民が責任を

曾根 泰教氏 慶応大大学院教授



そね・やすのり 48年生まれ。慶応大大学院博士課程修了。専門は政治学、政策分析論。同大学DPP(討論型世論調査)研究センターの研究代表者を務める。

立会人 問題の意をどう測るかで、政策に関する民意測り方としては十分との批判もあります。

討論型世論調査とは

立会人 問題は意をどう測るかで、政策に関する民意測り方としては十分との批判もあります。

そのほか、48年生まれ。慶応大大学院博士課程修了。専門は政治学、政策分析論。同大学DPP(討論型世論調査)研究センターの研究代表者を務める。

立会人 とはいえ、過去には「ねじれ国会」下でも与野党が合意し、成案を得た法案もありました。

仙谷氏 選挙と試験と抽選の三つの上手な組み合わせを考えなければ、自立もなければ参加も、よりあらまほしきガバナンス(統治)に到達しない、という結論になりますかね。

仙谷氏 選挙と試験と抽選の三つの上手な組み合わせを考えなければ、自立もなければ参加も、よりあらまほしきガバナンス(統治)に到達しない、という結論になりますかね。

仙谷氏 選挙と試験と抽選の三つの上手な組み合わせを考えなければ、自立もなければ参加も、よりあらまほしきガバナンス(統治)に到達しない、という結論になりますかね。

仙谷氏 選挙と試験と抽選の三つの上手な組み合わせを考えなければ、自立もなければ参加も、よりあらまほしきガバナンス(統治)に到達しない、という結論になりますかね。

仙谷氏 選挙と試験と抽選の三つの上手な組み合わせを考えなければ、自立もなければ参加も、よりあらまほしきガバナンス(統治)に到達しない、という結論になりますかね。

(尾中)



せんごく・よしと 46年生まれ。東京大法政学部中退。90年の衆院選で旧社会党から初当選後、96年旧民主党に参加。官房長官などを歴任。衆院徳島1区、当選3回。

民意と国会が補完関係に

仙谷 由人氏 民主党政調会長代行

仙谷氏 今の世論調査には「世の中に正解はある」という幻想があるので、時代が複雑化する中で「AとBどっちなんだ」と問題を単純化し、分かりやすさを求める傾向が増幅しているような気がします。今の世論調査は何の説明もなく、電話で二者択一のような単純な問いを発する。そこから得られる答えが政策選択の指標になるとは思えません。

仙谷氏 選挙と試験と抽選の三つの上手な組み合わせを考えなければ、自立もなければ参加も、よりあらまほしきガバナンス(統治)に到達しない、という結論になりますかね。

仙谷氏 選挙と試験と抽選の三つの上手な組み合わせを考えなければ、自立もなければ参加も、よりあらまほしきガバナンス(統治)に到達しない、という結論になりますかね。